



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北6条東5丁目マンションA棟	階数	14
建設地	札幌市東区北6条東5丁目1-5、1-6	構造	RC造
用途地域	商業	平均居住人員	206 人
建物用途	集合住宅	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2023年9月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	1,384 m <sup>2</sup>	評価の実施日	2022年6月30日
建築面積	405 m <sup>2</sup>	作成者	
延床面積	4,969 m <sup>2</sup>	確認日	2022年6月30日
		確認者	

「配慮シート」に  
外観パースを張り付けて下さい。

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.5 ★★☆☆☆ B-

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 100%  
③上記+②以外のオンサイト手法 100%  
④上記+オフサイト手法 100%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価  
建物全体の[BEI][BEIm]= 0.99

### 2-5 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.1

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.8

音環境	3.0
温熱環境	3.0
光・視環境	2.5
空気質環境	2.7

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.0

機能性	1.6
耐用性・信頼性	2.6
対応性・更新性	1.9

#### Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 1.4

生物環境	1.0
まちなみ・景観	2.0
地域性・アメニティ	1.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.7

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.9

建物外皮の熱負荷	3.0
自然エネルギー	2.0
設備システム効率化	3.1
効率的運用	3.0

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.6

水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	2.3
汚染物質回避	3.3

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.4

地球温暖化への配慮	3.0
地域環境への配慮	2.1
周辺環境への配慮	2.3

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b> ・周辺建物、環境との調和に配慮した。	<b>A 省エネルギー</b> ・二重サッシ、断熱の強化による熱損失の低減
<b>B 省資源等</b> ・外壁はコンクリート打放し仕上げ、共用エントランスは、天然石貼など耐久性の高い材料を使用。	<b>C 緑化</b> 札幌市緑化基準を満たして植栽し周辺環境に配慮した
<b>D 雪処理</b> ・駐車場をロードヒーティングし排雪作業負荷の軽減に努めている。	

4 ほかの認証・評価制度の利用	
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし
BELS認証	なし
LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

**CASBEE札幌2016 (ver.1.4)**  
 (仮称)北6東5丁目マンションA棟

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0  
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能 <b>省エネ</b>								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備 <b>省エネ</b>								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御 <b>省エネ</b>								
2 映り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	2.0
<b>1 機能性</b>			<b>2.2</b>	0.40	<b>1.6</b>	1.00	<b>1.6</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			<b>3.0</b>	0.40	<b>1.0</b>	0.60	
1	広さ・収納性			-		-	
2	高度情報通信設備対応			-	1.0	1.00	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>1.0</b>	0.30	<b>2.5</b>	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)	居室天井高 2.50m		-	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>			<b>2.5</b>	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		2.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>2.6</b>	0.30		-	<b>2.6</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>			<b>3.0</b>	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>2.8</b>	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
<b>2.4 信頼性</b>			<b>1.4</b>	0.20		-	
1	空調・換気設備		1.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		1.0	0.20		-	
3	電気設備		1.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		1.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>1.8</b>	0.30	<b>2.0</b>	1.00	<b>1.9</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>1.8</b>	-	<b>1.0</b>	0.50	
1 階高のゆとり			<b>1.8</b>	-	<b>1.0</b>	1.00	
2 空間の形状・自由さ			<b>1.8</b>	-	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>2.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>1.8</b>	1.00		-	
1 空調配管の更新性			2.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			2.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			1.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			1.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			1.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			<b>-</b>	0.30	-	-	<b>1.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	<b>緑化</b>		<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	<b>緑化</b>		<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	<b>雷処理</b>		<b>1.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	<b>省資源 緑化</b>		<b>1.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	<b>2.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			<b>-</b>	0.40	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	<b>省エネ</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>	<b>省エネ</b>		<b>2.0</b>	0.10	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	<b>省エネ</b>	[BE][BEIm] = 0.99 -	<b>3.1</b>	0.50	-	-	<b>3.1</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	<b>省エネ</b>			-	-	-	
4.2 運用管理体制	<b>省エネ</b>			-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	<b>省エネ</b>		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	<b>省エネ</b>		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			<b>-</b>	0.30	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.3</b>	0.60	-	-	<b>2.3</b>
2.1 材料使用量の削減	<b>省資源</b>		3.0	0.13	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	<b>省資源</b>		-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	<b>省資源</b>	-	3.0	0.25	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	<b>省資源</b>	-	1.0	0.25	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	<b>省資源</b>		2.0	0.13	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	<b>省資源</b>		3.0	0.25	-	-	

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			-	-	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.3</b>	1.00	-	-	
1 消火剤	省資源	不活性ガス消火剤を使用している。	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.33	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>2.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	省資源	評価シートによる自動算出を行った。	<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.1</b>	0.33	-	-	<b>2.1</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>	省資源		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>	省資源 悪化 質処理		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>1.7</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		2.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 質処理		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.3</b>	0.33	-	-	<b>2.3</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>1.6</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>2.3</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			2.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

<b>1 建物概要</b>		BEE	0.5	BEEランク	B <sup>-</sup>
建物名称	(仮称)北6条東5丁目マンションA棟				
建物用途	集合住宅				
延床面積	4,969.0 m <sup>2</sup>				

<b>2 重点項目への取り組み</b>		<b>レーダーチャート</b>	
地球温暖化対策	<b>最重点項目</b> <b>省エネルギー</b>	★★★★★	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	<b>省資源等</b>	★★★☆☆	
	<b>緑化</b>	★★☆☆☆	
	<b>雪処理</b>	★★★★★	

<b>3. 重点項目のCASBEEスコア</b>					
<b>A 省エネルギー</b> ( 最高点 23.5 最低点 7.4 )		<b>合計</b>		<b>13.9点</b> /23.5点	
Q1 温熱環境	スコア	0.8 /1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	2.4 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.3 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	0.8 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	6.2 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 /4.0
<b>B 省資源等</b> ( 最高点 24.4 最低点 7.6 )		<b>合計</b>		<b>12.4点</b> /24.4点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.3 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.5 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	2.0 /2.6
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.0 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0 /4.4
<b>C 緑化</b> ( 最高点 15.3 最低点 3.1 )		<b>合計</b>		<b>4.8点</b> /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	0.9 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	2.4 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.5 /2.3			
<b>D 雪処理</b> ( 最高点 3.0 最低点 0 )		<b>合計</b>		<b>1.0点</b> /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数  
 ■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数